

2015年10月23日

第676回 本委員会の主要議題と概要

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会（会長 鈴木 純 帝人株式会社 代表取締役社長執行役員 CEO）では、本日11時より第676回 本委員会を開催しました。

主要議題およびその概要は以下の通りです。

1. エコプロダクツ 2015 への化繊協会コーナー出展について

日本化学繊維協会は、12月10日（木）～12日（土）の3日間、東京ビッグサイトで開催される国内最大規模の環境展「エコプロダクツ 2015」（主催：（一社）産業環境管理協会、日本経済新聞社）に、化繊協会コーナーを出展します。

- ・エコプロダクツ展への出展は2004年から続けており、今回で12回目となる。
- ・今年度の展示テーマは、「クールな未来を支える化学せんい」で、①快適な化学せんい、②植物からつくる化学せんい、③省エネに役立つ化学せんい、の3テーマで化学繊維の持続可能社会への貢献を紹介することとしている。
- ・この他、①説明専門員による高機能・高性能繊維の解説と実験（化学せんい実験教室）、②クイズラリーなどのアトラクション、③代表的な高機能・高性能繊維素材の実験動画（サイエンスシアター）の映写、④学習マンガ「大研究！化学せんいのチカラ」を常備した読書スペースの設置も予定している。
- ・化繊協会コーナーは、東展示場5ホール/小間番号5-020。

2. 外務省在リヨン領事事務所主催展示会「絹が結ぶ縁」への展示協力について

11月6日（金）～21日（土）の16日間、フランス・リヨンで外務省在リヨン領事事務所主催による展示会「Soyeux Destins～絹が結ぶ縁」が開催されます。化繊協会は先端繊維素材の展示で協力します。

- ・日本政府は、「日本文化の世界への発信」を掲げ、世界各国で展示会等のイベント開催を検討。外務省在リヨン領事事務所は、日本とフランスは絹の時代から最近の先端繊維の日仏協力までつながりがあることから、「繊維」を取り上げた情

報発信事業を提案し、実施に至ったもの。

- ・本展示会は、別添の資料2に記載の通り、「伝統的な繊維」（富岡のシルク等）から「先端繊維」までを取り上げた展示会で、日仏繊維協力 WG 交流案件の一つとして、化繊協会は先端繊維素材（高機能・高性能繊維製品（衣料用から産業用まで計 14 点）の展示で協力する。

3. 第 21 回中国国際化繊産業会議の概況報告

9月8日（火）・9日（水）の2日間、中国の浙江省・呉江 盛澤鎮にて、第21回中国国際化繊会議が開催され、その概要について報告がありました。

- ・中国国際化学繊維会議は中国で開催される化学繊維の国際会議であり、1985年の第1回北京国際化繊会議（第9回より中国国際化繊会議に名称変更された）から数えて21回目の開催となる。
- ・初日は、総合セッション（発展セッション）として、中国紡織工業連合会・高勇副会長、中国化繊工業協会・端小平会長による第十三次五カ年計画に関する報告、日本、米国、欧州からの報告をはじめとした特別報告が行われ、2日目は4つのテーマに分かれた分科会が開催された。参加者は、中国化繊工業協会・端小平会長、中国紡織工業連合会・許坤元名誉会長、高勇副会長、中国国内の大手化合繊メーカーの代表、地元政府・業界団体関係者、学者、研究機関の代表など約600名であった。
- ・今回の会議テーマは、「イノベーションとインテグレーション（創新と融合）、新常态のもとでの化繊産業の発展戦略」であり、初日には、今年中に完成されるとみられる第十三次五カ年計画の発展策について、高副会長および端会長から主要な政策目標、重点課題等についての報告があった。キーワードとしては、「新常态（低成長）のもとでの安定運営」、「供給過剰への適切な対応」、「工業化と情報化の融合、すなわち、化繊産業の情報産業化、サービス産業化の促進」、「環境対応」、「高性能繊維」、「ブランド化」などであった。
- ・初日のキーノートスピーチでは日本化学繊維協会の上田副会長が「世界の中長期的な合繊需給の見通し」に関する報告を行った。

4. 第 54 回ドルンビルン国際会議の概況報告

9月16日（水）から18日（土）の3日間、オーストリアのドルンビルンにおいて、第54回ドルンビルン国際化繊会議（主催：オーストリア化繊協会）が開催

され、その概要について報告がありました。

- ・本会議は、①欧州繊維産業の研究開発に関わる産学交流、②川上（素材）～川中（テキスタイル）～川下（最終製品）の情報交流の場として、1962 年以降、毎年ドルンビルンで開催されている。
- ・今年度は、ドイツ、オーストリア、スイスなど 30 か国から約 620 名が参加し、日本からも 19 名が参加した。
- ・テーマは、①ファイバー及びフィラメントの革新、バイオポリマー、②繊維及び繊維表面の機能化と適応、③不織布とフィルター、④環境と健康、⑤高機能・高性能繊維と加工技術の 5 テーマが取り上げられ、計 105 件の報告があった。日本からは東レ、東洋紡、旭化成、ユニチカ、東京工業大学から計 6 件の発表が行われた。

<本件についての問い合わせ先>

担当：日本化学繊維協会 技術グループ 兼 業務調査グループ 川名（03-3241-2312）

以上